

自分が子供のころは野良犬が当たり前にはいましたし、捨てられていた犬を飼ったこともありました。

だから、いつか自分で犬を飼うとしたら、そういった飼い主がいない子を飼おうと決めていました。

子供たちの年齢や住居など、犬を飼える環境が整った 15 年前、保護された子犬を譲渡していただきました。何匹かの子犬が走り回っている中、置物のように固まって警戒している臆病な姿を見て、この子にしよう決めました。

ペットを迎え入れる方法はいろいろあります。どのような経緯で飼うことになった犬でも、家族の一員になり、かけがえのない存在になることには変わりはないと思います。ペットショップでそれぞれの環境に合う犬を迎え入れることも大事なことです。

ただ、我が家に限って言えば、子供たちが保護される犬の存在を知り、共に暮らす大切さを知ってくれて良かったと思っています。

15 年前に家に来てくれた子犬は、今ではすっかり老犬になり、子供たちが帰省したときは、孫を迎えるおばあちゃんのように嬉しそうに迎えています。

当たると痛いほど振っている尻尾、ソファの上でお腹を出して寝ている姿を見ていると、至らない飼い主ながら、我が家は安心して暮らせる場所になれたのかなと思います。